啐啄

学校だより　第９号
令和５年１月16日
上越市立城西中学校

啐（そつ）とは、鳥が卵からかえるとき、殻の中で雛が鳴くこと。啄（たく）とは、親鳥が外から殻をつつくこと。両者相呼応した、逃すべからざる好機をいう。当校では、啐啄の精神から大きな成果が生まれると考え、職員玄関に掲額している。

「脱・勝利至上主義」のうねり

校長　五十嵐　守男

LIGA Agresiva（リーガ・アグレシーバ）。スペイン語で「積極的なリーグ」という意味です。甲子園を目指して行われるトーナメントとは別に、希望するチームの参加で行われている高校野球リーグ戦です。

ルールがユニークで、基本的に部員全員が試合に参加するきまりです。投手には、肩やひじに負担をかけないよう、投球数の制限や変化球の制限があります。打者は、スイングの力を付けるため、ボールが飛びにくい木製か、反発係数の低い金属バットを使います。送りバントの回数制限などを設けている地域もあります。

＊写真はイメージです。

リーグ創設者の阪長 友仁（さかなが ともひと）さんは、大阪出身で、新潟明訓高校時代に甲子園に出場した方です。大学卒業後、海外を渡り歩き、一発勝負でメンバーが固定されがちなトーナメントではなく、リーグ戦形式で、多くの選手が楽しみながら伸び伸びと技術を高める様子に心を打たれ、日本にも、レギュラー・補欠の別なく、野球を楽しみながら力を付けてもらえる場が必要だと考えたそうです。７年ほど前に大阪、長野、新潟の３地区でスタートしたこの試み（当時の名称は **LIGA Futura** リーガ・フトゥーラ＝「未来のリーグ」でした）は、今や22の都道府県に広がっています。

「甲子園」が絶対視されがちな高校野球において、「勝利」だけに焦点を当てない素晴らしい取組として注目されています。そしてそれを始めたのが、私たち新潟であったことには、誇りさえ感じます。

「“勝つ”ということには、麻薬的な魅力がある。」これは、ある指導者が語っていた言葉です。時に、その勝ちへの執着が、もっと大切なことを忘れさせてしまうことがあります。

現在、明秀学園日立高校硬式野球部の監督をされている金沢 成奉（かなざわ せいほう）さん。光星学院高校（現在の八戸学院光星高校）時代には監督として甲子園に何度も出場し、坂本 勇人（ジャイアンツ）ら多くのプロ野球選手を育てた金沢さんは、その頃の自分を「甲子園に取り憑かれていた」という言葉で振り返っています。現在は方針を変え「補欠をつくらない」ことを大切にした指導をされているそうです。

全日本柔道連盟（全柔連）が、毎年開催していた全国小学生学年別大会を廃止すると発表したことには、大きな反響がありました。連盟はその理由を「行き過ぎた勝利至上主義が散見される。心身の発達途上にある小学生が勝利至上主義に陥ることは好ましくない」と説明しています。

＊次ページに続きます。

スポーツ庁長官の室伏 広治（むろふし こうじ）さんは、この全柔連の決断を支持した上で、次のように語っておられます。

「早い段階から全国大会をやる意義はあるのだろうか。日本は、小中学生段階から全国チャンピオンを決めたがる珍しい国。また、ユース段階での国の代表選手が、その後オリンピック選手になる確率が低い競技が多いという、珍しい国。」「子どもの頃は１つの種目に偏るよりは、いろいろなスポーツを体験してほしい。」

── 脱・一発トーナメント。脱・レギュラー固定主義。脱・チャンピオン主義。そして、指導者のハラスメント根絶 ── 。このようなメッセージは、為末 大（ためすえ だい）さん、筒香 嘉智（つつごう よしとも）さん、益子 直美（ますこ なおみ）さんなど多くのアスリート（現役や経験者）からも出されてきています。

子どもにとって、生徒にとって、スポーツとは何なのか。また、文化芸術系の活動も含め、部活動とは、どうあるべきなのか。部活動における体罰やハラスメントをなくすためにはどうしたらよいのか。国で、県で、そしてこの上越市でも、学び直しや協議が進められています。

今、様々な地域で、そして様々な競技で起こっている「脱・勝利至上主義」のうねり。その根底にあるのは、「多くの子どもたちが、スポーツや文化芸術活動を楽しむことをとおして、成長すること、幸せになることへの願い」なのでしょう。

先月は、中学校体育連盟主催大会の参加資格変更についてお知らせしました。年末には、スポーツ庁・文化庁から**「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（下の QR コードからご覧になれます）」**が出されました。これを受け現在、上越市としての部活動のあり方について協議が進められています。内容が決まり次第お知らせし、各部や学校全体で相談したり、ご意見を聞いたりしながら、当校の取組も決めていきます。その際は、生徒の心と体、そして、生徒の思いを何よりも大切にしながら、部活動改革を進めてまいりたいと考えております。

上越特別支援学校の皆さん、ありがとうございます。

12 月 12 日（月）から３日間、上越特別支援学校の生徒さんが制作した染め物が校内に展示されました。作品返却時には、福祉委員が書いた感想と、妙高学級の生徒が制作したミニクリスマスツリーを送り、交流を深めました。

新型コロナウイルス対応が始まって以降、直接ふれ合っての交流会ができていないのが残念ですが、生徒にとっては「共生」を学ぶ貴重な機会となっています。

福祉委員長　３年２組

様々な染め物が届きました。どれも色のグラデーションや配色が美しく、とても驚きました。今回は直接、会っての活動はできませんでしたが、良い交流会となりました。

ボランティアの皆さん、ありがとうございます。

前号に続き、ボランティアで城西中の教育活動を支えてくださっている方々をご紹介します（第2回）。

←上教大ボランティア　　さん【妙高生徒見守り】

明るく元気で素直な子ども達が多く、自分のペースで一つ一つの活動や授業に一生懸命に取り組む姿が印象的です。

上教大ボランティア　　さん【にじいろ教室見守り】→

卓球やバドミントンを一緒に行っています。学校全体が活発で、生徒の皆さん、先生方共に楽しく生活していると思いました。私自身も非常に楽しく多くを学ばせていただいています。

←上教大ボランティア　　さん【にじいろ教室見守り】

お話をしたり卓球やバドミントンを一緒に行ったりしています。希望があれば剣道もできます！！とても元気がよく、優しい生徒が多いと感じました。学校で会ったら気軽に話しかけてください。

We are doing our BEST!

＊このページは、保護者の皆様向けの 12 月特別号で掲載しましたが、地域の方向けに再掲いたします。

寒い冬も、生徒たちは、学習に、スポーツに、文化芸術活動に、頑張っています。

【女子バスケットボール】◇第 54 回上越地区中学校新人バスケットボール選手権大会

（12/3，4　清里総合スポーツセンター　12/10　上越市総合体育館）

・1 回戦　不戦勝

・2 回戦　城西中○117－20　柏崎 SEAGULLS

・決勝リーグ　城西中○70－62　柏崎B-alma

　　城西中○63－39　北条中

　　城西中○74－32　新井中

優勝

←新潟県Ｕ１４新人大会(1/15～長岡北部体育館ほか)に、上越地区１位チームとして出場します。

【柔道】◇第 31 回新潟県中学校新人柔道体重別大会　（12/11　鳥屋野総合体育館）

・男子 60kg 級　2 位

・男子 81kg 級　優勝

・女子　　3 位

・女子　　3 位

毎年 12 月に行われ、入賞者にはケーキが授与されるので、「ケーキ杯」の通称で呼ばれている大会です。　→

【吹奏楽】◇第 46 回新潟県アンサンブルコンテスト　（12/10　上越文化会館）

・クラリネット５重奏　金賞　→　翌週の代表選考会出場権獲得

・金管８重奏　　金賞　→　翌週の代表選考会出場権獲得

◇第 46 回新潟県アンサンブルコンテスト　代表選考会　（12/18　上越文化会館）

・クラリネット５重奏　金賞　→　西関東大会(1/28　埼玉県　久喜総合文化会館)出場権獲得

・金管８重奏　　金賞　→　西関東大会(同上)出場権獲得

県代表となった 10 団体のうち、同じ学校から２団体が選ばれたのは城西中のみの快挙です。

２月の主な行事予定

２日（木）新入生保護者対象入学説明会

３日（金）生徒総会

９日（木）・10 日（金）1，2 年定期テスト（午後授業なし）

＜※　欠席者テスト⇒13 日（月），14 日（火）＞